

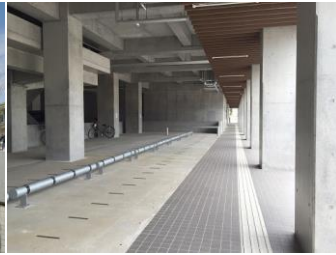
受賞者の概要

施設部門

<最優秀賞>

○羽咋市立羽咋中学校（中学校）

（設置者：羽咋市 設計者：株式会社 シグマ・デザイン建築設計事務所）

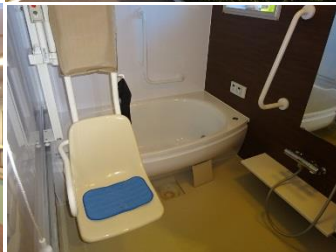


- ・深い底下やピロティを通路・駐車場・駐輪場として活用している他、段差のない体育館のエントランス、所々に設置されたベンチ、オストメイト対応の多目的トイレなど、全体的に質の高いバリアフリーの配慮がなされている。
- ・当初から周到な計画で作られたことが随所に見られ、今後の小中学校のモデルとなる施設である。

<優秀賞>

○特別養護老人ホームかんじん川北（特別養護老人ホーム）

（設置者：社会福祉法人 加賀中央福祉会 設計者：株式会社 金沢計画研究所）

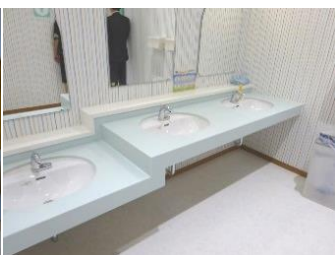


- ・雨雪対策のみならず、お祭りなどのイベントに利用できる大庇を持つ車寄せや、色分けされた各階や部屋、のれんなど、施設感を無くした親しみある造りが工夫されている。
- ・また持ちやすい手摺や、リフト付浴室、オストメイト付多目的トイレ、視認性の高いサインなど、福祉施設ならではの質の高い配慮がなされている。

<奨励賞>

○根上中央児童館（児童福祉施設）

（設置者：能美市 設計者：株式会社 コスモ計画設計）



- ・大きなサインや低く設置された洗面台など、児童にとって使いやすい設計がされていることに加え、全体的にゆるやかで車いすでもアクセスしやすい経路・受付、段差が解消された玄関、見通しのよい広い廊下、ベビーベッドも備えたトイレなど、高齢者や障害者、小さい子を持つ親にも配慮された設計になっており、誰にとっても優しい施設である。

活動部門

<最優秀賞>

○「バリアフリーマップ+」制作委員会

(活動内容)

- ・高齢者、障害者、乳幼児連れの家族が、出掛ける前に施設のバリアフリー情報や人的配慮の有無について知ることにより、外出におけるバリアを低くする目的から活動を開始した。
- ・上記の目的を持って調査を検討していた、3団体(NPO法人いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと、小松市障害者自立支援協議会、小松短期大学)が小松市ふれあい福祉課のコーディネートにより協働した。
- ・小松市内の施設のバリアフリー状況(駐車場、トイレ等)に加え、その施設の目に見えない気遣いをも調査し、その結果を冊子化した「バリアフリーマップ+」を完成させ、市の窓口や障害者福祉関係機関へ配布を行い、ホームページ上にも公開した。



<優秀賞>

○特定非営利活動法人

石川バリアフリースターセンター

(活動内容)

- ・県内外の高齢者・障害者など障害(バリア)を抱えた人たちの「旅の観光案内窓口」として、より多くの方々が安心して石川県内を旅行できるよう様々な活動をしている。
- ・具体の活動としては、県内の市町、観光地、施設などのバリア調査において、信頼できる正確な情報の収集、発信(調査結果をHPで公開)、また自治体委託事業の中では、自治体をはじめ観光関連企業など向けに「バリアフリー観光セミナー」を開催し、ハード面だけでなく多用途に対応出来るようにソフト面の強化によるバリアフリー観光の重要性を推進している。



<奨励賞>

○たんぽぽ

(活動内容)

- ・難病や障害のある人のリハビリを兼ねて音楽活動を行っている。
- ・石川県難病相談・支援センターや金沢市の保健所の事業に協力して演奏活動を行っており、難病や障害のある人の社会参加を促している。



福祉用具部門（一般）

<最優秀賞>

○自動ブレーキ付き歩行器（南 喜與志）

（作品概要）

- ・高齢者の歩行器を利用した歩行訓練における転倒事故を防ぐため開発した。
- ・歩行器利用者の腰部がブレーキ板に触れることにより、自動的にブレーキがかかる制動ブレーキ構造となっており、安全に歩行訓練を行うことを可能にしている。
- ・施設でも実際に使用されており、安全性や利便性をより高めていくため、これからさらなる改良が期待される。



<優秀賞>

○外転防止 美脚エプロン（日吉 敏子）

（作品概要）

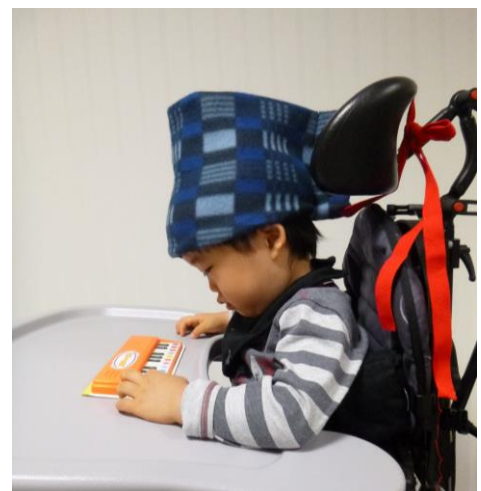
- ・車いす利用者の大腿部の外転をさりげなく防止することができるエプロン。
- ・エプロンにはホックがついており、簡単に着脱が可能である。
- ・また、小さい毛布であれば、毛布ごと固定でき、防寒対策もできるようになっている。
- ・エプロンの端を折って三角にしていることから、ホック一つで簡単に着脱することができ、トイレ介助（しびん利用含む）も容易にできる。



○ヘッドサポート らくだくび（荒木 茂）

（作品概要）

- ・脳性麻痺の子どもで、首が安定せず、頭が前や横に落ちている子がいるのを見かけることが多く、楽に頭を保持できるように開発した。
- ・ネックウォーマーとひもを利用した作品であり、安価に作成が可能
- ・食事などの短時間の使用を想定している。
- ・従来、頭をまっすぐに保持する場合はベルトなどを使用していたが、ネックウォーマーを使用することで、手軽かつあまり不快感がないように保持することができる。

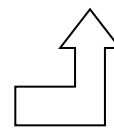
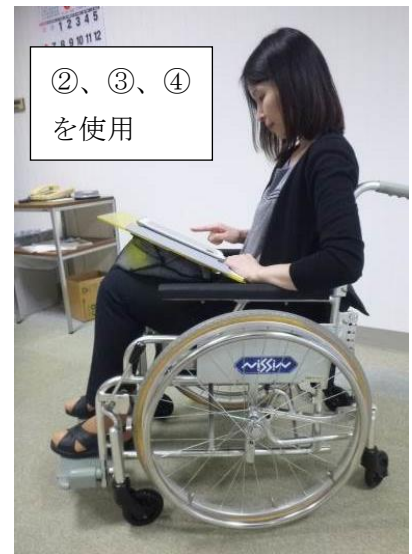


<奨励賞>

○変身！ひざのせテーブル（橋谷 康伸）

（作品概要）

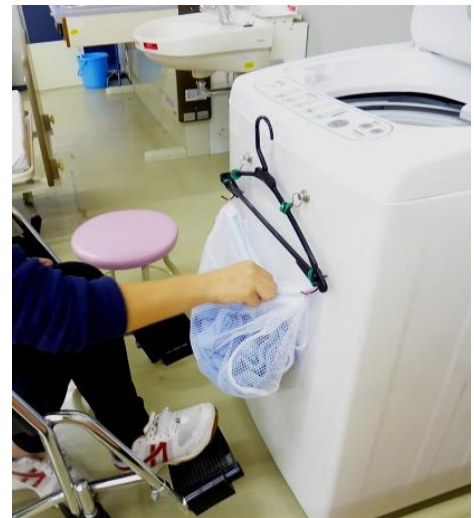
- ・車椅子に乗った状態で、食器や洗濯物を運ぶ際に不安定になってしまうことから本作品を開発した。
- ・複数のパーツで構成されており、用途に応じてパーツを組み合わせることで、本人の状態に合わせて適切に作業を行うことができる。
- ・膝に接するクッションはネットの形状や中身（ビーズ）を工夫することで、大腿部になじみやすいものとなり、安全な運搬や作業ができる。



○片ネット（井上 真緒）

（作品概要）

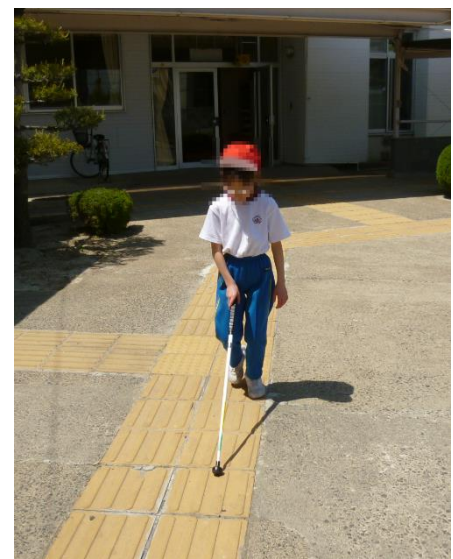
- ・片麻痺の方が片手で洗濯ネットを使用できる作品。
- ・磁石を利用して洗濯機に設置した本作品により、洗濯ネットを簡単に固定することができるため、片手で洗濯ネットのファスナーを開閉することができる。
- ・ネットの引っ掛け部分はあらかじめ赤く色づけされており、その部分を引っかけることで外れることなく使用することができる。



○視覚障害児専用白杖（吉岡 学）

（作品概要）

- ・小学生である視覚障害児は、成長が著しく、白杖を使った授業では身体に適した白杖を使用できていないことから開発に至った。
- ・本作品は子どもの成長に合わせて杖の長さの調節が可能であり、調節時の固定もしっかりとしているため、利便性が高い。



福祉用具部門（企業）

<最優秀賞>

○コンフォートチンアーム開閉装置

（川端鉄工所株式会社）

（作品概要）

- ・従来の川端鉄工所のコンフォートチンアームは、「開閉部分のロックが固く使いにくい」、「締め付けの調整が難しい」といった意見が寄せられており、改善開発を行った。
- ・従来品では、一旦ロックを解除すると元の位置が分からなくなってしまうが、今回の製品を用いると、レバーは軽い力で操作でき、ロックを解除しても元の位置に戻すと自動で固定されるため、誰でも手軽に元の位置で固定することができる。



<優秀賞>

○外国語・緊急避難誘導対応・トイレ内音声案内装置

「ポッチ UD」 （レハ・ヴィジョン株式会社）

（作品概要）

- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催決定及び近年の海外からの観光客増加に伴い、外国語対応や緊急時対応装置の要望が各施設から挙がったため、開発した。
- ・設置された多目的トイレに入ると人感センサーにより音声ガイドが鳴るものがあるが、本製品に作られたボタンを押すことで「英・中・韓」への音声切り替えが可能
- ・ボタンを複数取り付けることにより最大 12 カ国語の音声案内が可能となり、視覚障害者のほか、日本のトイレに不慣れな外国人にとっても有効な装置と考える。



<奨励賞>

○車いすテーブル（収納タイプ）「Cabine（キャビネ）」

（クドオ デザイン）

（作品概要）

- ・車いすに取り付けるテーブルであり、その天板の一部が開閉可能になっていることから、普段から身に付けていたいスマートフォンやタブレット型端末機器を素早く収納・取り出すことができる。
- ・障害のある方にとって情報端末機器の携帯は必須となっており、ニーズを的確に捉えた製品となっている。

